文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
SAN'INダイバーシティ推進ネットワーク

News Letter

Vol. 05
2022年６月 発行

島根大学　島根県立大学　松江工業高等専門学校　米子工業高等専門学校

第50回SAN'INご縁ネットミーティング記念セミナー開催（オンライン）

令和３年11月24日（水）、第50回記念セミナーとして「社会政策の比較ジェンダー分析―分野の開拓はアカデミック・セクシズムとの闘いでもあった」をテーマに、東京大学名誉教授　大沢真理先生を話題提供者としてお招きしました。当日は、連携機関や広島大学などから33名の参加がありました。大沢先生の研究経過をもとに、日本社会でのジェンダーに対する状況の変化についてお話しいただきました。また、現代日本社会における生活保障システム、税・社会保障制度では「男性稼ぎ主」が優遇され、特に働くシングルマザーの貧困率の高さはOECD諸国で最悪の水準であること、更にコロナ禍での「対策」が追い打ちをかけ、日本の母子世帯の置かれている状況がますます悪化していることをお話しいただきました。

参加者からは、日本の今後の見通しについて私たちレベルでできることは何かなどの活発な発言もあり、短い時間ではありましたが濃密な学びの時間となりました。

職場における女性活躍について（第99回拡大さぽっとカフェ）

～中間シンポジウムパネルディスカッションの続編～

令和４年３月10日（木）に「職場における女性活躍について」をテーマに、連携機関や中四国の複数の大学、自治体から15名が参加しました。

藤田島根大学ダイバーシティ推進室長あいさつの後、河野学長特別補佐から、女性研究者や女性教授、女子入試合格者の比率の推移について説明がありました。その後、島根大学総合理工学部亀井教授から「男性教員から見た理工系学部のダイバーシティ推進の現場感覚」、生物資源科学部室田教授から学部独自でのアンケート報告や理系女子学生向け魅力発信方法に関する提案をいただきました。また、松江高専、米子高専からは前半の報告に対するコメントに加え、高専では目の前の高専生を女性研究者の「金の卵」として捉え、高専生を対象にした研究職紹介の試みを実施したと報告がありました。

参加者からはダイバーシティ推進に賛同する一方、国の方針として大学の人件費が年々削減する中で女性を増やしていく難しさについて率直なご意見をいただきました。今回、大学・高専において、現場のダイバーシティ推進を進めるための建設的な意見交換や議論をすることができました。今後もオンライン開催の利点を活かし、定期的に拡大さぽっとカフェを開催したいと考えています。

英語論文の書き方セミナー

令和３年６月の実践編に引き続き、「国際会議での英語プレゼンテーション（令和３年10月26・28・29日）」並びに「研究者のための英語スキルアップオンラインセミナー　パート２（令和４年３月７・８・15日）」を実施いたしました。講師は、小野義正先生（理化学研究所）と、冨田洋介先生（カクタス・コミュニケーション株式会社）をお招きしました。

６日間の延べ参加人数は513名に上りました。また、２年間講師を担当していただいた小野先生からは、英語論文にチャレンジする皆さん方へメッセージを頂きました。

英語論文はまず書き始めることが重要です。直されても直されても、査読者から辛口コメントがあっても、戦って論文出版まで頑張っていただきたいと思います。いくつも論文を書くことによって、どんどん書きやすくなってきます。英語論文執筆については、いつまでも勉強が続くことになりますが、少しずつ書きやすくなり、論文も通りやすくなってきますので、最後まで頑張り抜きましょう。

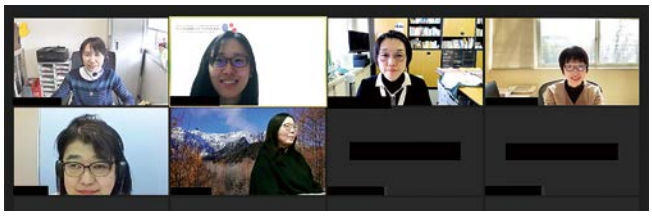
SAN'INご縁ネットミーティング

分野を超えた研究ネットワーク、研究アイデアのひらめきのきっかけ、新たな共同研究などを生み出す「場」作りを目的として月に１回程度開催しています。ご縁ネットミーティングでは、「メンバーが自身の研究を中心に話題提供し、参加者でディスカッションする」学びながら交流を深める企画を実施しています。

主体的・対話的な深い学びのためのLTD話し合い学習法を用いた授業実践

【日時】令和３年12月21日（火）12：05～13：05
【講師】高橋梢子（島根県立大学 看護栄養学部　准教授）
【参加人数】17名

４年生の授業で実践されている「授業前の十分な予習と授業中における学生同士の話し合いを組み合わせた学習法あるLTD話し合い学習法」の実践内容について教えていただきました。学生からは、その他の授業に比べて格段に多い予習量に対して不満の声も上がったそうですが、「一人一人が積極的に行動することでグループワークを楽しくできた」「授業内容に対する理解が深まっただけでなく、他者との違いを認め理解し合うことでお互いを尊重し合えるようになった」など、数多くの前向きなフィードバックが得られたそうです。参加者からは、LTD話し合い学習法を用いた授業をどのくらい実施すれば学生はこの学習法で学ぶスキルを身につけられるかという質問があり、活発な意見交換を行いました。



あなたは病理医を知っていますか？

―臨床医の向こうにいるもう一人の医師―

【日時】令和４年２月21日（月）12：00～13：00
【講師】荒木亜寿香（島根大学 医学部　准教授）
【参加人数】17名

普段私たちが出会わない病理医の仕事について、詳しくご紹介いただきました。病理医は、採取された患者さんの身体の一部を顕微鏡等で観察し、細胞の異常を解明したり、病気の最終診断をすることもあるそうです。病理医の診断に使用された検体の残りは、一定期間病院で厳重に保管され、患者からセカンドオピニオンの要望があった場合再診断のために患者に渡したり、研究に使用したりするそうです。「自分が見ている検体の向こう側に患者さんがいるということを忘れないように、という恩師の言葉を大切にして日々の病理診断を行っている」という言葉がとても印象的でした。

精神障害者のスティグマ

【日時】令和４年３月17日（木）12：00～13：00
【講師】足立孝子（島根大学 人間科学部　助教）
【参加人数】16名

精神病患者に着目するきっかけとなった事件や、精神病患者を社会がどう扱ってきたかの歴史について、お話しいただきました。現在でも精神病患者に対する偏見が根強い中で、精神病が疑われる若者を対象にチームで丁寧に当事者とその家族の話を聞き、充分な精神的サポートを行った事例を報告いただきました。少し前から「鬱は心の風邪」と言われ出し、しんどい人が病院に行きやすくなった一方で、本来精神疾患ではない人も病気と診断されてしまうという問題が発生しているそうです。社会から精神病患者への偏見を取り除き、自分や家族の状態を正しく判断し、必要であれば適切に医療にかかれるように、精神病に対する正確な知識と理解が必要だということがわかりました。

栗・柿の魅力に迫る：未利用部分の活用に着目して

【日時】令和４年４月27日（水）12：10～13：00
【講師】鶴永陽子（島根大学 人間科学部　教授）
【参加人数】16名

皮を剥くのが簡単な「ぽろたん」という品種の栗の、鬼皮や渋皮や葉などの成分を分析した結果、渋皮が消臭効果、抗菌効果がとても高かったので、繊維の研究者と共同で渋皮を混ぜ込んだ紙を開発し、紙おむつへの応用を考えているということでした。また、廃棄する場合がほとんどの「柿やみかんの果皮」のペーストを使って、マドレーヌやクッキーを試作され、官能評価を実施されていました。このように、素材に適した加工方法を開発し有効活用することにより、植物の未利用部分は多くの可能性を秘めていることを教えていただきました。参加者からは「未利用資源を活用することは日本にとって重要であることをアピールできるのでは」「枝の中の繊維も活用できるのではないか」「観光の観点から、加工した食品のおみやげ化や、加工作業自体の体験アクティビティ化も良いのでは」などさらに発展することが期待されました。

人とともに　地域とともに
国立大学法人
島根大学

進路発見ツアー（オンライン）

令和４年１月22日（土）に次世代たたら協創センター、生物資源科学部附属生物資源教育研究センター、出雲村田製作所、３月20日（日）に生物資源科学部附属生物資源教育研究センター、医学部看護学科、島根県立大学看護栄養学部健康栄養学科とコラボして進路発見ツアーを開催しました。当初３月のツアーはバスツアーの予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を鑑み、オンラインツアーとなりました。１月には保護者や高校の先生を含め９名、３月には県外からの申込もあり40名がWeb参加しました。各機関から、ロールモデルとして女性研究者・技術者及び学生からのプレゼンテーションを行った後、複数のブレイクアウトルームを使って座談会を行いました。参加者からは「高校生の時、どれくらい勉強をしていたか」「直接先輩方からお話を伺うことができ、将来自分が大学で勉強している夢を膨らますことが出来た」など前向きなコメントが数多く寄せられました。

国際学術雑誌投稿支援事業

令和３年度は後期に２件採択し、論文投稿料、英文校閲料等の関係経費を支援しました。

島根大学女性教員メンタープログラム

新任（着任後５年未満）女性教員が、一定の職務経験を持つ教員との交流を通じて大学教員として成長していくことを支援する、島根大学女性教員メンタープログラムを令和３年度から開始し、現在４名の新任女性教員がプログラムを活用しています。

多様性が＜フツー＞な大学であるとは？（第100回拡大さぽっとカフェ）

令和４年３月16日（水）、「多様性が＜フツー＞な大学であることは？」をテーマとして、国際基督教大学教授　加藤恵津子先生を話題提供者としてお招きしました。国際基督教大学で導入されたオールジェンダートイレについて、導入された経緯や設計上の工夫、設置後の利用者の反応について紹介頂きました。特に利用者から「フツー（普通）」という評価が嬉しかったそうです。

当日は、教職員、学生、自治体から12名の参加がありました。参加者から「ダイバーシティのために『頑張る』よりも、皆が肩の力を抜いて過ごせるよう、少しずつ進んでいければいいと思う」とのコメントがありました。ダイバーシティ推進室では今後も対話を通じてダイバーシティ推進に関する意識向上をサポートすることにより、ダイバーシティがフツー（普通）であるという組織風土の醸成に取り組みたいと思います。

若手女性研究者を対象とした科学研究費補助金獲得支援事業

この事業は、若手女性教員による科研費獲得を支援することを目的として支援しています。令和３年度採択者には、応募する科研費に応じた額の研究費を支援するとともに、複数名の科研費アドバイザーによる助言を受けることを義務付けました。この支援事業の結果、支援した15名のうち７名が令和４年度科研費に採択され、（基盤研究（C）：４件、若手研究：３件）本事業支援者の採択率は47％となりました。

研究サポーター制度

今年度も育児や介護等によって研究時間の確保が困難な研究者に対して、大学が配置した研究サポーターが研究の補助業務を行う研究サポーター制度を実施します。

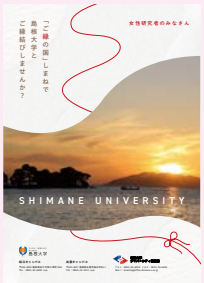
刊行物紹介

※刊行物について、入手をご希望の方はダイバーシティ推進室までお問い合わせください。

SAN'INダイバーシティ推進ネットワーク年次報告書

令和３年度に行った、SAN'INダイバーシティ推進ネットワークの活動をまとめた年次報告書を作成しました。

島根大学「女性研究者のみなさん」リーフレット



島根大学と地域のサポート情報を掲載したワークライフバランスリーフレットです。

SAN'INダイバーシティ推進ネットワークの推し研究室（Vol.1）

SUN'IN Girlsから中高生へのメッセージと活動内容、各校に所属する理系研究室紹介（研究紹介、ここでしかできないこと、中高生へのメッセージ、女子学生から一言など）をまとめました。

SAN'INダイバーシティ推進ネットワーク理系研究室紹介動画公開

連携４機関（島根大学、島根県立大学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校）の理系研究室で学んでいる女子学生から、「自分が出会ったこと」「目指すこと」をテーマに研究室の魅力、進路選択、後輩へのメッセージを発信しています。
https://diversity.shimane-u.ac.jp/initiative/research/index.html

公立大学法人
島根県立大学

カタリバの開催（第４回、第５回）

第４回カタリバ（令和３年11月17日）及び第５回カタリバ（令和４年３月16日）を、いずれもオンラインで開催しました。

第４回カタリバは、「次世代リーダーの成長を支え働きたくなる職場をつくるには」をテーマとして９施設14名の病院看護管理者及び看護協会の方に参加いただきました。「サーバントリーダーシップ」について聖隷クリストファー大学教授 樫原理恵氏に講演をいただくとともに、参加者同士で対話を行いました。

対話の中では、それぞれの立場で日々迷いながら実践しているマネジメントやリーダーシップ役割を共有し、次世代リーダーの成長を支え働きたくなる職場をつくるために必要なことが話し合われました。

第５回カタリバは、「新任師長・副師長の教育を考える」をテーマとして、10施設20名の病院看護管理者及び看護協会の方に参加いただきました。

前回カタリバのアンケートからテーマを選んだこともあり、活発な意見交換が行われました。

今後も、看護管理者のために組織を超えてつながるしくみや場として、カタリバをはじめとした各事業を進めていく予定です。

進路発見ツアー（オンライン）

令和４年１月22日（土）に「進路発見ツアー（参考３ページ）」に、本学看護栄養学部健康栄養学科の籠橋有紀子教授が参加し、プレゼンテーションを行いました。

籠橋教授から、健康栄養学科のカリキュラムや授業内容について紹介すると共に、「しまね県産品」に着目した自身の研究と地域への発信について説明されました。

その後の座談会でも、参加者から多くの質問や前向きな声が数多寄せられました。

籠橋教授プレゼンテーションで紹介した本学健康栄養学科の学生たち

独立行政法人国立高等専門学校機構
松江工業高等専門学校
National Institute of Technology, Matsue College

松江高専男女共同参画研修会を開催

令和４年３月２日（水）、オンラインによる男女共同参画研修会を開催しました。

この研修会は、本校教職員の男女共同参画に関する理解を深めることを目的として毎年実施しています。

今年度は株式会社リカレントの田辺亜紀子氏を講師にお招きして「外国人女性研究者受け入れのための異文化理解研修」を実施し、76名の参加がありました。

研修会では、外国の方が日本に適応するまでの流れや異文化でお互いに納得したコミュニケーションをとるためには、相手の文化圏が言葉を大切にするか背景を大切にするのかを把握しておくことが必要など、外国人女性研究者受け入れに必要な知識や、海外の文化や外国人女性の働き方に対する理解を深めました。

松江高専研究写真展「女性研究者の目に映る美しい世界」を開催

女子児童・生徒、保護者や地域住民の皆様に、女性研究者というキャリアに関する理解促進活動の一環として、研究写真展を開催しました。

●松江会場　松江テルサ（１Ｆ　アトリウムシャラ）
　　令和４年３月７日（月）～11日（金）
●益田会場　益田市役所（１Ｆ　ロビー）
　　令和４年３月22日（火）～25日（金）
　　キヌヤ益田ショッピングセンター
　　（２Ｆ　パブリックスペース）
　　令和４年３月26日（土）～４月８日（金）

職業としての「高専教員」を紹介する講演会を開催

令和４年２月14日（月）、本校学生を対象に、職業としての「高専教員」を紹介する講演会を開催しました。この講演会は、「研究職」を志す学生に高専教員という職業に興味を持ってもらい、博士課程への進学を含めたキャリア形成の一助とするために開催したものです。

講演会では、第一部で本校の卒業生である数理科学科福田尚広講師と環境・建設工学科山口剛士准教授から「高専教員のお仕事紹介」と題して、自身が研究者・教育者を選んだ動機、大学院での学生生活の様子、現在の教育・研究活動等について講演をいただき、第二部では福井工業高等専門学校環境都市工学科芹川由布子助教から「女性研究者・技術者講演会」と題して、自身がどのような経緯で「高専教員」という職業を選択したか、職場としての松江高専と福井高専の違い等について講演していただきました。

また、人事・労務係担当者から高専教員の給与や休暇等に関する説明も行われました。

独立行政法人　国立高等専門学校機構
米子工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Yonago College

2021年度高専女子フォーラム in 中国四国を開催

令和３年12月13日（土）、Teamsによるオンライン形式にて、理系女子のすそ野拡大とキャリア教育の取り組みの一環として、女子中学生とその保護者、企業関係者等を対象とした「高専女子フォーラム in 中国四国」を主幹校として開催しました。

本校からは女子学生11名が学校生活、研究活動、課外活動など計８件の発表を行いました。発表した女子学生は、理系を志したきっかけや将来の目標など、自分を見つめ直すいい機会となりました。

校長・３主事と女性教員の懇談会

令和４年３月17日（木）、校長・３主事と女性教員の懇談会を開催しました。懇談会には８名の女性教員が参加し、高増前男女共同参画推進室長から本校の女性参画のあゆみについての講演、続いて校長・３主事とのフリートークが行われました。参加者から男女に関係なく働きやすい環境づくりを求める意見が出るなど、活発に意見交換が行われました。

SAN'INダイバーシティ推進ネットワーク事務局：〒690-8504 島根県松江市西川津町1060／E-mail：kyodo-sankaku@edu.shimane-u.ac.jp